

混合機、粉砕機を起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	4	22～24	被災者は、工場内にある破砕機の清掃を行うため、破砕機投入口のコンベアの開口部から機械内に入ったが、稼働していた破砕機の羽根に巻き込まれて死亡したもの。	10805	1～9
2021	6	14～16	ダート製造用の仮設プラントにおいて、同プラント内の攪拌機内の清掃作業中に、同機内の回転部に巻き込まれたもの。	20202	30～49
2021	9	8～10	被災者は、つかみ機で廃棄物を粉砕機に投入する作業を行っていた。粉砕機に廃棄物が詰まったため粉砕機を停止し、同僚と二人で詰まりの除去作業を行った。粉砕機操作盤の前にいた同僚に、ホッパーの外にいる被災者から粉砕機を動かすよう指示があり、同僚が粉砕機を再起動したところ、被災者がホッパー内で粉砕機に左足を巻き込まれ、搬送先の病院で死亡した。被災者がホッパー内に入るところは誰も見ていない。	150102	100～299
2021	11	14～16	擁壁下部地盤改良工事の打設終了後の1 t 練りコンクリートミキサー内部を清掃中、プラント作業員がミキサーの羽根に巻き込まれ死亡。	30199	10～29
2021	12	10～12	飴練機を用いてみたらし団子のたれを製造していたところ、たれを混ぜ合わせる棒に衣服が巻き込まれ心肺停止の状態で見られたが、同日、死亡したもの。混ぜ合わせる棒は、1回転／6秒程度で時計回りに円を描くように作動するもので、発見時、被災者は左肩付近を巻き込まれ、立った状態で発見された。なお、店内にいた2名は被災直前の作業は現認していなかった。	10109	1～9
		16	同僚が被災者の大きな声を聞き、向かったところ、廃プラスチック粉砕機のローラーの間に足先から骨盤までを挟まれている被災者を発見。救出後に病		10～

2020	2	～	院に運ばれたが死亡した。一人で作業を行っており、現認者はいない。救出	150102	29
	18		にあたった者の話では、間違えてリモコンのボタンを押してしまった旨被災者自身が話していたとのこと。		
2020	4	14 ～ 16	化成肥料工場内の廃肥料搬送用ベルトコンベアのかさ上げ・アジャスト工事において、被災者は、仮設単管足場の作業床でコンベアアングルの仕上げ塗装作業を行っていたところ、作業床の脇で稼働中のため回転していた冷却キルンの胴体外側に取付けてある剥離用ハンマーに、着用していた安全帯ランヤードが引っ掛かり、キルンの回転に巻き込まれた。キルンの上部で安全帯ランヤードに吊られた状態で被災者が発見された。	30309	1～9
2020	4	14 ～ 16	砂型の原料を混ぜ合わせる混練機が不具合を起こし停止したため、混練機の内部に入って掃除等の作業を行っていた。他の作業者が混練機内部で作業していることに気づかず起動スイッチを押し作動させたため、当該機械の攪拌機に巻き込まれて被災した。	11002	10～ 29
2020	10	10 ～ 12	オーガフィーダー（乾式メタン発酵設備）の清掃作業に6名従事。作業指揮者の指示により部下がオーガフィーダーの運転スイッチを押したところ、機械内部に入っていた被災者2名が回転する2軸スクリューに巻き込まれて1名が死亡し、残り1名が被災したものの。	170209	1～9
2020	12	8 ～ 10	当該事業場は、プラスチック容器を製造する事業場であり、災害は製造工程で出る端材を粉碎する機械の保全中に発生した。被災者は、粉碎機の刃の交換のため、粉碎機の上半分のカバーを開け、チェンブロックで固定して閉じないようにし、刃の交換作業を行っていたが、チェンブロック外れていたため、カバーが自重で閉じ、被災者の頭部がカバーと防音壁の間にはさまれ死亡した。	10805	300 ～ 499
2019	1	14 ～ 16	被災者ら4名は工場3階から、パドルミキサーに原料の粉体を投入した後、2階の粉体の混合室において、混合室内の掃除をしていた。被災者がパドルミキサーの排出口を覗き込んだところ、回転の軌道上にあった投入口が被災者の背後から接近し、投入口と排出口の間に肩、首を挟まれ被災したものの。	10803	50～ 99
			事業場工場内のコルゲート棟コルゲートラインにおいて、被災者が、不良品		

2019	2	18 ～ 20	段ボール等を細かく裁断するシュレッダーに、段ボールの切れ端を投入する作業（正確には段ボールを当該機械の前に設置されているコンベアの上に放り投げる作業）に従事していたところ、何らかの理由により、当該機械に手を伸ばした結果、当該機械のロール状の歯車に右手を巻き込まれ、そのまま頭部まで巻き込まれて、頭部圧挫創により即死したもの。	10602	50～ 99
2019	3	6 ～ 8	牧草等と配合飼料を粉碎・混合し家畜飼料を製造するためのトラクターを動力源とした移動式のミキサー車で、被災者はミキサーから製造し終えた飼料の取り出しを行い、その後の運搬作業を別の作業者に引継いだ。引継いだ作業者が残存した飼料があったためミキサーを駆動させたところ、ミキサー内部にいた被災者がスクリーンに巻き込まれて死亡したもの。	80209	1～9
2019	4	8 ～ 10	被災者は、漁港内に設置された碎氷供給機（ポッパ上部から投入された氷を攪拌し、下部に設けられた供給口から定量ごとに排出するもの）のホッパー内に積み上げられた氷を崩す作業を行っていたところ、ホッパー内に落下し、ポッパ内に設けられた攪拌棒に下半身を巻き込まれ、外傷性ショック死した。なお、目撃者不在だが、災害発生状況から、被災者はホッパーの端又は氷の上にのぼって作業を行っていたと推定される。	70201	30～ 49
2019	9	8 ～ 10	自走式破碎機の修理を行うため、破碎する木材を入れる投入口を油圧で上に持ち上げた状態で、同機械に上がって破碎機部分の点検を行っていたところ、投入口が下がり、投入口と破碎機本体の間に頭部をはさまれ、死亡した。	11701	1～9
2018	6	12 ～ 13	被災者は現場内に置かれたセメントミキサーのドラムの内部に入りドラム内部のセメントの除去を行っていた。同僚の作業員（外国人技能実習生。国籍ベトナム。）がドラム内部に人がいるにもかかわらず、ポンプを作動させドラムに残留水を吸い上げようとしたところ、ポンプ作動ボタンと間違えてブランド作動ボタンを押してしまい、ドラム内部の攪拌翼が回転し、当該攪拌翼に被災者の足が巻き込まれ被災し、後日死亡したもの。	30199	10～ 29
2018	8	16 ～	新リサイクル工場内において、被災者はフライアッシュとセメントを混合するミキサー内の清掃及び給油作業を行っていたが、他の作業員がミキサーの	10901	10～

		17	運転開始操作を行ったため、被災者がミキサー内で挟まれたもの。		29
2017	1	16 ～ 17	被災者は、苗用の土の製造工程において、翌日に行う他品種の土の製造に備えるため、機械を停止し、ほうきを使用してコンベア部等の掃除を行っていた。清掃作業終了後、被災者は機械を起動させたが、シャフト部周辺に除去出来ていない土を発見したことから、これを手でかき落とそうとしたが、シャフト部には直角に9 c m間隔でスクリューが存していたことから、右上腕が巻き込まれた。	60101	10～ 29
2017	3	12 ～ 13	トンネル工事現場に設置された生コンプラントにおいて、プラント作業員であった被災者が、生コン混練用ミキサーに全身を巻き込まれて死亡した。	30102	10～ 29
2017	6	16 ～ 17	製紙工場の抄紙機のプレスローラー及びベルトコンベヤーの5か所のベアリング（直径15 c m幅1 c m）の交換作業において、ベアリング交換作業を終えたが、取り外したコンベアーシャフトを戻す際にベルトコンベヤーのベルトがねじれていたため、粉碎機の中に立ってベルトを直していたところ、被災者の頭上のコンベヤー端部に設置された粉碎機の起動用リミットスイッチに触れたため粉碎機が動き出し足から全身を巻き込まれた。	11702	10～ 29
2017	11	12 ～ 13	有機肥料を製造するプラントの運転を行っていた被災者が、原料投入口（ホッパー）の下部に設置されているシャフトに挟まれている状態で発見された。	11709	1～9
2017	12	14 ～ 15	マンガダストとセメントを混ぜ合わせてペレットを製造する工程において、マンガダストとセメントを混ぜ合わせる「パグミル」と呼ばれる混合機（幅68.5センチ×長さ331センチ×深さ57.5センチ）の清掃作業を被災者が一人作業で行っていたが、機械室の一括故障ランプが表示され、作業長が現場に確認に行ったところ、混合器のスクリューに両足と左腕を巻き込まれている被災者が発見された。	11009	100 ～ 299
2016	1	14 ～	発泡スチロール減容機（発泡スチロールを砕いて溶かす機械）にベルトコンベアで発泡スチロールを流す作業中、破碎ローラーに巻き込まれた。	150103	50～ 99

		15			
2016	6	14 ～ 15	リサイクル工場で、投入コンベアの上から粉砕機内の材料を確認中、誤って稼働中（回転中）の粉砕機に転落し、全身が機械に巻き込まれた。	10805	1～9
2016	9	15 ～ 16	被災者は、工場内にある破砕機の清掃を行うため、破砕機投入口のコンベアの開口部から機械内に入ったが、稼働していた破砕機の羽根に巻き込まれて死亡した。	10805	1～9
2016	10	16 ～ 17	被災労働者が、コンクリートミキサー内の清掃中に、注油作業をしようとした別の労働者が当該ミキサーを稼働させたため被災した。	10901	30～ 49
2015	11	9 ～ 10	混練機の上部の3箇所の点検口（50.5×35.7cm×3箇所）の内、材料投入口側の点検口から水分添加量を確認しようとしたが、粉じんがひどく確認できなかったため、中央部の点検口に設置していた集じん用フードを取り外し、投入口側の点検口に移動させようと持ち上げた時、足を滑らせて中央部の点検口から落下し、混練機のスクリーンに巻き込まれて死亡したものの。	10809	30～ 49
2015	5	7 ～ 8	飼料庫に設置された混合機を使用して飼料の混合作業に従事していたところ、被災者が混合機内のスクリーンに全身を巻き込まれて死亡したものの。被災者は死亡しており、災害発生時は1人作業であったため、詳細な発生状況は不明。	70101	10～ 29
2015	2	7 ～ 8	養殖カンパチのえさの原料（鯖等を30cm、60cm、10cmに氷漬したもの）を砕くクラッシャーの作業台に乗り、原料を投入していた被災者がクラッシャーの回転刃に巻き込まれたもの。	70201	1～9
2015	7	9 ～ 10	被災者は、製品である固形燃料の材料の破砕機が材料の詰まりにより止まったため、破砕機内に入り詰まった材料を取り除く作業を行っていた。作業は、破砕機を停止して行っていたが、一緒に破砕機の調整を行っていた同僚が、被災者が破砕機内にいることを知らず、破砕機を作動したため、被災者が破砕機に巻き込まれたもの。	10899	1～9

2015	8	0 ～ 1	被災者は、反応器の駆動ユニットのメンテナンス作業を行っていたが、勤務終業時刻に被災者が戻って来なかったため、同僚が捜したところ、被災者が当該駆動ユニットのステーター架台部等（約500キログラム）と床に頭部を挟まれ、仰向けに横たわっているのを発見した。なお、災害発生時、被災者は一人でメンテナンス作業に従事していたため、災害発生時の目撃者はいない。	10109	10～ 29
2014	1	8 ～ 9	被災者は、解体現場等から持ち込まれた廃石膏ボードを粉碎するリサイクル工場にて、二軸スクリュウの破碎機で石膏ボードを破碎し、コンベアでサイロに搬送する工程に従事していた際、破碎機内に立ち入り、スクリュウに挟まれた。	10909	1～9
2014	6	16 ～ 17	ミキサーの清掃作業中、被災者は、ミキサー内で大腿部を攪拌羽に挟まれている状態で発見され、死亡した。	10901	10～ 29
2014	7	11 ～ 12	碎石プラントにて、碎石機への原石の投入作業中、碎石が積み上げられる石山の上方で倒れている被災者が発見された。	20202	1～9
2014	7	12 ～ 13	プラントの運転中、被災者は、乾燥炉内に設けられた製品を砕く粉碎機のシャフトに巻き込まれた状態で発見された。	10806	1000 ～ 9999
2014	11	9 ～ 10	古タイヤの粉碎を行う作業場にて、起動している粉碎機のブレード部に挟まったタイヤを取り除くため、手すりから身を乗り出し、足で押し出そうとしていたところ、巻き込まれた。	150102	10～ 29
2013	1	16 ～ 17	災害復旧工事現場において、被災者は、他の労働者1名と法面モルタル吹付作業に使用したミキサー（セメントと砂を混合する機械）の清掃作業を行っていた。被災者が、ミキサーの側面のドアを開放し、ミキサーの内側に付着したセメントをハンマーで叩いて落としていたところ、回転していた攪拌用の羽根に左手から頭部を巻き込まれた。	30199	1～9

2013	11	15 ～ 16	プラスチック製品などの廃品を破砕機で断裁中、廃品が詰まったため取り除こうとしたところ、機械に巻き込まれて死亡した。	150102	1～9
2013	6	13 ～ 14	被災者は、石膏原料を攪拌する機械の上部の羽と、下部のスクリュウの間に巻き込まれている状況で発見された。	10909	1～9
2013	12	9 ～ 10	流動化土再生処理プラントの攪拌機上部にあるミキサー排出口がうまく開閉しない不具合が発生したため、被災者を含む二人の作業員が点検修理に取り掛かった。被災者が機内に入り、サンダーで削る不具合箇所がわかるように赤色のスプレーを吹付けた後、もう一人の作業員がリモコンで上部の開閉部分を動かそうとしたところ、下部の攪拌翼が作動したため被災者は体を挟まれ、すぐにリモコンの非常停止装置を押したが死亡した。	30201	10～ 29
2013	5	18 ～ 19	生コンを練るミキサーに付いたコンクリート等を除去する清掃作業のため、ブレーカーによるはつりや水圧洗浄機による洗浄を、被災者を含め3名で行っていた。停止していたミキサーが動き出し、はつりを行っていた被災者がミキサーに巻き込まれた。	10901	10～ 29
2013	11	5 ～ 6	製麺加工用ミキサーを用いて小麦粉と塩水を練ってうどん生地を加工中、蓋を開けて練具合から塩水の分量を目視で確認した後、誤ってミキサー内の攪拌棒に右腕を挟まれたことで上半身がミキサー内に入り込んだ。救出されたが、頸部圧迫による窒息で死亡した。	10109	1～9
2013	11	14 ～ 15	清掃センターにおいて、ごみ破砕機の定期点検で、破砕機内部の破砕刃の清掃を行っていた際、破砕刃を動かす必要があるため、作業指揮者が被災者に破砕刃を動かすことを告げ、階下にある操作盤に向かい、合図を行った後操作盤の運転スイッチを入れたところ、被災者が破砕機内部の破砕刃上に入り、破砕機に巻き込まれた。	150103	30～ 49
		1	被災者は、樹脂を混合する機械の清掃作業を行っていた。樹脂を混合機に送り込む投入路の最上部付近に、樹脂を押し込むための錘を最上部まで上げて隙間を作り、ストッパーで錘を保持して、中2階床面付近から投入路に身を		10～

2013	1	～ 2	乗り出して作業をしていた際、ストッパーのレバーを固定するブロックが破損し、ストッパーが外れたため錘が急落下し、被災者は頭から右腕にかけて投入口と落下した錘との間に挟まれた。	10805	29
2013	6	11 ～ 12	コンクリート殻の破碎作業を、被災者を含む3名で行っていたところ、コンクリート殻の投入口であるホッパー近くにあるジョークラッシャー（圧砕機）の開口部から被災者が転落し、圧砕部に挟まれ死亡した。	150102	10～ 29
2013	1	8 ～ 9	被災者は、粉碎機の運転管理を行っていた。災害発生当日、4台のダンプトラックが原石を粉碎機に投入し、5台目のダンプトラックが原石を投入しようとしたところ、粉碎機に不具合が生じたため、ダンプトラックの運転手が被災者を呼ぼうとしたが見当たらず、ベルトコンベア先の粉碎した石の山の中に被災者が埋まっているところを発見された。	20201	10～ 29
2013	3	14 ～ 15	中間処理施設において、木屑を処理するラインの第1クラッシャーの補修作業中、補修したコンベアの試運転を行うため同僚が配電盤の電源スイッチを入れた際、クラッシャー内部でスクリューを溶接補修していた被災者が巻き込まれた。	150102	1～9
2013	3	8 ～ 9	堆肥舎において、発酵堆肥製造機（堆肥場のレール上を走行しながら堆肥をかき混ぜる機械）のかき混ぜ棒が外れたため、同機を一時停止させて修理していたところ、同機が自動で再起動して当該かき混ぜ棒が付いている同機のロータリー部に巻き込まれた。	70101	10～ 29
2012	10	17 ～ 18	コンクリート二次製品製造業の工場建屋内に設置してあるコンクリート攪拌機の上部の枠（ヘリ部分）に立ち、高圧洗浄機を用いて、攪拌機内部のスクリュー部分（枠から1.3m下部分）を洗浄していた被災者は、右足をスクリューに巻き込まれた。	10901	10～ 29
2012	10	10 ～ 11	被災者は廃材（木材）を粉碎機を使用し粉碎していた。作業内容は、グラップルで廃材を粉碎機に投入し、粉碎された廃材はマグネットを装着した重機で混在している金属を取除き、粉碎された廃材を山に寄せていた。作業開始後しばらくして、グラップルのオペレーターである被災者の姿がなかったの	150102	1～9

			で捜したところ、粉碎機内に巻き込まれているのを発見された。		
2012	1	16 ～ 17	被災者は不定形耐火物の混練機（高さ約1m、直径約2m）内のかくはん羽根に全身を巻き込まれた状態のまま発見された。発見時、混練機上部の原料投入口の蓋が開いており、何らかの原因で運転中の混練機内に転落した。	10909	10～ 29
2012	11	7 ～ 8	被災者はプラスチック原材料を攪拌するヒータミキサー内に立ち入って掃除作業を行っていたところ、同僚作業者がヒータミキサーの起動スイッチを押したためヒータミキサー内の攪拌羽が回転し、攪拌羽に巻き込まれて死亡した。なお、同僚労働者はクーラミキサーの起動スイッチを押すつもりであったが、誤ってヒータミキサーの起動スイッチを押したため、本件災害が発生した。	10805	50～ 99
2012	8	17 ～ 18	印刷機のラインを設置する工事現場において、ラインに付属する原版搬送装置の調整作業を単独で行っていた被災者は、当該装置のストロークする部分と当該装置付近のガイドローラーに頸部をはさまれ、救急搬送されたが、窒息により死亡した。	30302	10～ 29
2011	12	15 ～ 16	小型移動式クレーン後部に積載されているコンクリートミキサーを洗浄作業中、稼働していたミキサーに挟まれ死亡したものの。	30309	10～ 29
2011	4	10 ～ 11	生コンプラントにおいて、ミキサー内部に付着したコンクリートをミキサー開口部側から削岩機を使用して除去する作業を行っていたところ、ミキサーの開口部が上昇しないよう固定していた木製ストッパーが折れ、その反動でミキサー開口部が上昇して、ミキサーと投入ホッパーの間に顔面をはさまれ、出血性ショックにより死亡したものの。	11209	1～9
2011	6	14 ～ 15	使用済み砥石のリサイクル処理工程において、ジョークラッシャーで破碎された砂状の砥石粒が排出用フレキシブルダクトの内部で詰まったので、担当作業者がダクト内部の詰まり状態を解消するためダクト近くのロッドミル（回転ドラム式粉碎機）のメンテナンス用作業台上り、当該ダクトをハンマーで叩いていたところロッドミルの回転ドラムに身体が巻き込まれたものの。	10909	100 ～ 299

2011	3	8 ～ 7	鶏糞肥料製袋工程における肥料供給機において、製袋工が肥料をほぐす攪拌棒に巻き込まれ死亡した。被災者は午前8時から一人作業（肥料の袋詰）を行っていたが、午前8時50分頃、上記状態にあるのを同僚に発見されたもの。なお当該機械の回転部には、前・側部ともに囲い込み（高さ90cmのコンパネ製）がなされていた。	70101	10～ 29
2010	10	16 ～ 17	水道局の浄水場において、河川水の沈殿池（取水した水に含まれる泥やごみなどを凝集剤と呼ばれる薬品を加えて凝集させ、汚泥として沈殿させる池）の改良補修工事のため、沈殿池の上澄み液を取水する開渠内にて、スクレーパを停止しないで、開渠へ取水する穴をふさぐボルトの締め付け作業を行っていたところ、被災者がスクレーパ（沈殿した汚泥の掻き寄せ機）のガイドローラーにはさまれて、圧迫され死亡したもの。	30110	1～9
2010	7	9 ～ 10	作業員6名は、災害発生地において、タンク2基の内部表面に付着したものを除去することとなった。被災者2名は、17立方mのタンク内部に入り、他の作業員から渡された足場材の設置作業を行った。内部で清掃作業中、同作業を把握していない他の労働者が攪拌機の起動スイッチを押したため、タンク内のプロペラ状攪拌機（軸はタンク内中心から垂直に立ち、3つの攪拌するプロペラ状を持つ）が回りだした。この時、被災者1名が攪拌機の巻き込まれ死亡、他の1名が打撲した。	150101	10～ 29
2010	7	10 ～ 11	混合機内に立ち入り清掃作業中、排水始動スイッチを操作しようとして、隣の粕練混合機の起動スイッチを誤操作し、回転した混合機内の羽に巻き込まれた。	10103	30～ 49
2010	6	12 ～ 13	昼休み休憩時間中、被災者の叫び声に現場内で休憩していた労働者が、コンクリートガラ破碎機（長さ約1m、直径20cmのローラーとローラーの間）に右足の股まではさまれている被災者を発見した。レスキュー隊により救出されたが搬送先の病院で死亡が確認されたもの。昼休み前に当該機械は運転を停止させていたので、機械の運転再開や被災者の行動は目撃者がおらず不明である。	30209	10～ 29
			工場内で加圧型ニーダーを用いてプラスチック樹脂とカーボンの混練作業を		

2010	5	5 ～ 6	行っていたところ、加圧蓋の下降レバーと他のレバーを間違えて操作すると同時に混練槽を覗き込んだため、混練槽と加圧蓋の間に頭部及び右手指を挟まれたもの。	10801	50～ 99
2010	4	13 ～ 14	被災者は、あんこを製造する釜の清掃作業を1人で行っていた。釜内部をホースを用いて水で羽根などに付いたあんこの残留物を取り除こうとして、釜内の攪拌用羽根が回っている状態で作業を行っていて、羽根に巻き込まれた。約2ヶ月後に入院していた病院で死亡した。	10104	50～ 99
2010	1	14 ～ 15	被災者は出張先である上記アスファルト製造事業場にて、アスファルトミキサーのホッパー排出口に取付けられてある開閉蓋の裏蓋補強板の取替え作業を行っていた。当時被災者は、蓋の収まり部分のバリ取りをするため、蓋の開スイッチを押し、蓋を開放して排出口から覗き込むような態勢で当該作業を行っていたところ、作業を行っていた最中にヒューズが切れ、自動的に閉まりだした開閉蓋に頸部及び肩部を挟まれ死亡したもの。なお、当該修理作業は当日のみの仕事であった。	11702	1～9
2010	1	11 ～ 12	破砕機（リサイクルクラッシャー）等により再生骨材を製造する作業場において、被災者が破砕機の下部のベルトコンベヤー部を動かしながら、ベルトのずれを調整しようと破砕機下で作業を行っていたところ、破砕機下部とベルトコンベアとの間に挟まれた。建設廃材を持ち込んだ取引業者が発見したもの。	10909	1～9
2009	2	18 ～ 19	被災者は、同僚と2人で緑茶の抽出プラントの清掃作業をしていた。被災者が攪拌機を停止して中に入り、かす等を取り除く作業を行っていたところ、同僚の作業者が誤って攪拌機の起動ボタンを押したため、攪拌機に巻き込まれた。	10106	100 ～ 299
2009	1	13 ～ 14	破砕処理機で石膏ボードの破砕作業を一人で行っていた作業者が何らかの原因で破砕部（回転部）に詰まった金属片等を取り除くため回転部に手を入れ巻き込まれ、被災者の悲鳴で他の作業者が機械を停止させたが、巻き込まれた作業服によって身体を圧迫され被災した。なお、回転部の覆いは破損により	150102	10～ 29

			当時取り外されていた。		
2009	3	17 ～ 18	被災者は、残土リサイクル施設に設置された粘性土フィーダーのホッパーの回転刃に付着していた土を清掃するため、回転刃の上に直に載り、ホッパー下のフィーダーベルト（コンベヤー）に土を落としていた。フィーダーベルトに除去した土が堆積したため、被災者がコンベヤーラインを回すよう他の清掃作業を行っていた作業者に指示したところ、同作業者が全てのラインを動かしたため、被災者は回転刃に巻き込まれた。	150103	1～9
2009	4	8 ～ 9	代表者と被災者の2人にて、バッチャプラント（生コン製造プラント）の部品（ミキサゲートの内張部品）を交換する作業の準備作業中、代表者がミキサゲートを稼働させたところ、ホッパー内にいた被災者が、ミキサゲートと生コンの放出口の枠との間にはさまれた。	11702	1～9
2009	7	17 ～ 18	被災者は、一人で側溝の蓋板製造ラインの生コン投入ホッパーの掃除を行っていた。しばらくしてホッパーの側を通った事業主がうめき声に気づき、ホッパー内を見たところ、被災者が攪拌機のシャフトにはさまれていた。	10901	10～ 29
2009	8	12 ～ 13	建築用廃材を破砕機にて破砕作業において被災者は、破砕機コンベヤー付近の清掃中、テーブルプーリーに身体をはさまれた。	150102	10～ 29
2008	6	11 ～ 12	パーカーではいだ杉の樹皮を木屑（バーク）にする作業を行っている工場に設置された粉砕機において、被災者が投入コンベヤーから落とされる樹皮を受ける粉砕機の投入口から粉砕機内部の回転刃に巻き込まれた状態で発見された。投入口上部に設置されたフードの側面には開口部（扉が損傷して開放された状態、縦54.5cm×55cm）があった。	10401	100 ～ 299
2008	10	10 ～ 11	粉砕機に廃材を投入作業中、巻き込まれた。	11502	100 ～ 299
2008	12	1 ～	当事業場は、前日の午前8時から機械を停止していた。被災者は同僚と2人で宿直勤務（操業をしていない日に行う。）を行っていて、2人は午前1時頃に社内をパトロールした後、一度、休憩室に戻って来た。その後、被災者がい	150102	30～

		2	なくなったので同僚が社内を捜したところ、被災者がダスト調湿装置内にはさまれて逆さの状態になっていた。		49
2008	1	7 ～ 8	木くず再生処理を行う破碎機において、磨耗したハンマー部の肉盛（溶接）工事を終えた後、被災者が回転軸部分のある破碎機内部に入って溶接部の写真撮影を行っていたところ、他の作業者が破碎機を始動させたため、破碎機に巻き込まれて死亡した。	150102	1～9
2008	10	14 ～ 15	被災者が、コンクリートの原料を混合するミキサー（直径2.8m、高さ1.5m）の内部で底板の張替え作業を行っていたところ、突然、ミキサーの電源が入り、回転する混練羽に巻き込まれて死亡した。	10901	1～9
2008	8	14 ～ 15	生コンクリート製造工場において、ミキサー車の運転手である被災者ら3名が製品の輸送作業終了後、製造プラントのミキサーの清掃のために主電源を切り、ミキサーの内部で清掃作業を行っていた時、ミキサーの排出ゲートを開けるために1名がミキサーから出て主電源を入れたところ、ミキサーが作動して内部の2名が攪拌羽根に巻き込まれて1名が死亡した。	10901	1～9
2008	4	8 ～ 9	産業廃棄物処理施設内において、破碎機のフタを開けて内部に付いた土砂等をケレン棒等で取り除く作業中、同僚が排出コンベヤーの起動ボタンと破碎機の起動ボタンを押し間違えたため、破碎機が起動して破碎機の回転部（ハンマー）と回転部をおおっている壁の間にはさまれて死亡した。	150102	30～ 49
2008	7	16 ～ 17	工場内の端材リサイクルプラントにおいて、端材粗粉碎機への端材の投入状況の監視作業中、粉碎機に巻き込まれなかった端材を取り除こうとして停止した粉碎機内に入ったところ、粉碎機が動き出して粉碎機のクラッシャーに巻き込まれて被災した。	10905	100 ～ 299
2007	1	13 ～ 14	加圧ニーダー内部の付着ゴムの清掃作業中に、作業者が加圧ニーダーの混合槽内に混練ゴムの残物を発見したため、加圧蓋の下降起動スイッチを押した後、混合槽内に身を乗り出したため、加圧蓋の下降が開始され、投入ドアと加圧蓋にはさまれた。	10806	10～ 29
			被災者他2名は工場内でアルミ溶解作業を行っていた。工場長と同僚が溶解		

2007	1	11 ～ 12	炉のある部屋で作業を行っていたが、被災者がいないことに気付き、探したところ、隣の部屋にあるチューブミル（直径１．８ｍ、長さ５．５ｍ。アルミを取り出した後の不純物を回転により粉碎するもの）が蓋を開いた状態で回転していたため、回転を停止し、中を見ると被災者が倒れているのを発見した。	11101	1～9
2007	5	14 ～ 15	破砕機の上でボード製品の投入作業中、破砕機の投入口（幅１０ｃｍ）に巻き込まれた。	150102	1～9
2007	6	20 ～ 21	食料品製造工場において、室内に設置されている粉碎機に巻き込まれ、意識不明状態となっていた被災者（派遣作業員）が発見された。当該粉碎機の清掃にあたり、粉碎機の蓋を外そうとしたところ、スライド部分に食い込みが生じうまく開口できなかったため、右足で当該蓋を蹴った際に動いている粉碎機に巻き込まれた。	10109	50～ 99
2007	6	17 ～ 18	プラスチック製品製造工場において、原料を粉碎機のホッパーに投入していたところ、原料が詰まったため、それを取り除こうとした際に手を引き込まれて切断した。搬送された病院で死亡した。	10805	1～9
2007	1	10 ～ 11	被災者は、杵と臼の態様の動力機械（スタンプミル）で、金属粉の製造作業を行っていたところ、動力機械の杵の部分で上下運動させるため回転している巴状の鋳物等に付着している油をウェスで拭き取ろうとして巻き込まれた。	11109	10～ 29
2006	12	8 ～ 9	魚の粉碎機に冷凍イワシを投入している際、投入口に入り、粉碎機の刃に巻き込まれた。	70209	10～ 29
2006	9	9 ～ 10	始業点検中、クラッシャー上部のホッパーから転落し、クラッシャーに挟まれた。	20201	10～ 29
2006	9	19 ～	うどん店舗隣の麺小屋において、一人でうどん生地の製造を行っていた。被災者が掃除道具を取りにこないため、他の労働者が麺小屋の様子を見に行く	140201	30～

		20	と、麺練機に巻き込まれた被災者を発見した。		49
2006	8	17 ～ 18	そうめんの原料（小麦粉、食塩水）を練り機で練る工程で、当該工程が間もなく終了する見込みとなったため、機械停止後に練り機の点検・清掃をするよう上司から指示を受け、機械の前で待機していた被災者が練り機の攪拌棒に巻き込まれた。	10109	50～ 99
2006	7	17 ～ 18	フェノール樹脂の玉チップを製造する作業が終了し、製品を排出し終わった後の高速混合機（直径１０３センチ、深さ８０センチ）を清掃するため上部の蓋を開けたところ、誤ってミキサー槽内に転落し、電源を切った後の惰性で回転している攪拌羽根（最大径８６センチ、重量３１．９０キロ）に巻き込まれた。	10899	30～ 49
2006	6	13 ～ 14	残土捨場を拡張するため、伐木をし、その伐木をした木を移動式のクラッシャーでチップにしていた。昼休みの時に、使用していた重機の油を持ってきた業者が被災者がいないため付近を捜したところ、血痕等の付着したチップを発見し、救急車を要請したが死亡が確認された。	60201	10～ 29
2006	2	13 ～ 14	攪拌機（バケットタイプ、幅８６ｃｍ、奥行５６ｃｍ）にて粉末状の生姜湯の攪拌工程を終了し、取り出し作業中、巻込まれた。	10102	10～ 29
2006	1	7 ～ 8	エポキシ工場において、エポキシ工場の責任者である被災者は早出し、同工場内で一人で混合機を使用してエッチ材（事務机の天板の端に貼ってある材料）の着色作業を行っていたところ、回転中の同混合機の回転軸に巻き込まれ、身体全体が振り回された。その際、金属製の扉、同混合機のマスト等に足がぶつかり被災した。	10808	100 ～ 299
2006	1	15 ～ 16	段ボール製品製造工場において、休憩時間中、段ボールくず粉碎機に通じるピット内を竹箒で清掃中の被災者が、ピット奥にあるダクト（直径３５ｃｍ、長さ１９８ｃｍ）に入り、進み、高速で回転するカッターで、被災した。休憩後に作業を再開した同僚が、くずが破碎されないため、ピットを点検したところ、ダクト内に被災者を発見した。	10609	30～ 49

2005	11	11 ～ 12	焼却処理施設内において、破袋機のスクリーンの羽根をアーク溶接で肉盛する作業を行っていたところ、突然、破袋機が稼動し、回転したスクリーンに巻き込まれた。	30309	1～9
2005	11	16 ～ 17	工場内において、機械設備の清掃作業中に攪拌機に挟まれた。	150102	10～ 29
2005	10	21 ～ 22	バンバリーミキサーのバックドアからホッパ内部に体を入れたところ、上方から自重により降下して来たラムに圧迫され窒息した。	10806	100 ～ 299
2005	12	16 ～ 17	生コンミキサーの清掃作業中、ミキサー内に転落した。	10901	10～ 29
2005	10	14 ～ 15	固結した石化樹脂をコンベヤー式固結物粉碎機でほぐす作業において、当該機械に巻き込まれた。	170209	100 ～ 299
2005	9	21 ～ 22	アルミ溶解炉から排出されたアルミ灰を粉碎機の回転ドラム（直径2m、長さ6m）に投入する作業において、作業を開始するため、運転スイッチを入れたところ、粉碎機のドラム内から、悲鳴が聞こえたため、運転を停止しドラム内をのぞいたところ、横たわっている被災者を発見した。	11101	30～ 49
2005	9	5 ～ 6	プラスチック原料を練り混ぜるバンバリー機の清掃のため、運転を停止し、ホッパードアから上半身を機械内部に乗り出して原料の拭取りをしていたところ、材料を上から押さえるウエイトとホッパードアとの間に挟まれた。	10801	30～ 49
2005	7	15 ～ 16	破砕機で発砲スチロールの破砕作業を単独で行っていた被災者が、当該機械内部の破砕板に巻き込まれた。	150103	10～ 29
2005	5	22 ～	被災者は、石灰肥料を製造するためパドルミキサー（混合機）で消石灰と砂糖水溶液の混合作業を行った後、ミキサー内に付着している残渣物を取り除	10809	30～ 49

		23	く清掃作業を行っていたところ、ミキサー内の攪拌羽根等に巻き込まれた。		
2005	5	14 ～ 15	二軸せん断破碎機の運転を止め、ホッパー内で作業を行っていたところ、同僚が同機制御盤のスイッチを押したためホッパーが稼動した。そのため、ホッパー内の刃部に被災者が巻き込まれた。	150103	10～ 29
2004	12	10 ～ 11	紙オムツ製造工程において、粉碎された紙原料中に混ざった番線を取り除く作業中、微粉碎後の原料の攪拌装置の外壁を一部外して、点検していたところ、他の作業者が、停止していたファンを寸動させたため、ファンに被災者が巻き込まれた。	10602	10～ 29
2004	2	7 ～ 8	作業場内において、生地製造工程の原材料混合機のバッチ内部の清掃作業中、突然、停止していたバッチ内部の攪拌部が起動し、攪拌棒に巻き込まれた。	10104	10～ 29
2004	10	0 ～ 1	コンクリートミキサーの羽の裏に固着したコンクリートを取り除くため、シュートに足場を設け、コンクリートミキサーの底から頭を出してハンマーを用いて作業していたが、シュートとコンクリートミキサーとの間にある開閉鉄板が閉まり、当該鉄板とコンクリートミキサーの底との間に挟まれた。	10901	30～ 49
2004	9	10 ～ 11	製麺工場において、製麺が終了したので攪拌機内に付着したカスをエアガンで噴いていたところ、攪拌機の攪拌棒（2本）に巻き込まれた。	10109	300 ～ 499
2004	1	14 ～ 15	コンクリートやアスファルトの破碎機の修理が終ったので、被災者が破碎機の破碎ローラー付近に立ち、自ら合図をし、他の者がスイッチを入れたところ、動き出した破碎機のローラーに巻き込まれた。	10909	1～9
2004	11	13 ～ 14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	150102	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	150102	10～ 29

2004	4	15 ～ 16	有機肥料を製造する作業場において、発酵ロータリーマシン（円型旋回型）の台車の上に乗り、機械に付着した堆積物の清掃作業を行っていたところ、堆肥の上に落ち、台車の下部にあるロータリー部回転軸に巻き込まれた。	70101	10～ 29
2003	12	20 ～ 21	産業廃棄物処理工場において、6名で工場内に設置してある自走式せん断機とその周辺の清掃作業中、せん断機の刃の掃除をしていた者の姿が見えなくなったので辺りを探したところ、ホッパー内に転落しせん断機に巻き込まれて死亡していた。	150102	10～ 29
2003	10	5 ～ 6	工場内の生麺製造室において、原料である小麦粉と塩水を混合し、こねて生地を作る自動化された機械の稼動状況の監視中に、機械の容器とその枠との間にはさまれた。	10109	30～ 49
2003	9	16 ～ 17	有機小麦粉使用のうどん製造ラインにおいて、作業終了後に手打式真空ミキサー（ステンレス製・容量約1m3）の清掃作業を行っていたときに、真空ミキサーの投入口（横1020mm、縦450mm）に上半身を突っ込み真空ミキサーと架台との間にはさまれた。	10109	10～ 29
2003	7	5 ～ 6	化学会社のトナー工場の混練設備において、攪拌（かくはん）機（直径135cm、高さ105cm）の清掃作業中に、攪拌（かくはん）機底面にある原料吐き出し口（25cm×35cm）と回転羽根に右上腕部をはさまれ切断した。	10899	30～ 49
2003	6	8 ～ 9	破碎機（建設廃材を木屑にする機械）のローラーに木屑がはさまったので、手動に切替えて破碎機の水平投入供給ユニット（質量約2.5t）を上昇させ、破碎機の中に入ってローラーにはさまった木屑を除去しているときに、作業場にきた工場長が破碎機制御盤の主電源スイッチを「切」にしたため、油圧が低下して水平投入供給ユニットが降下してローラーに頭部をはさまれた。	150103	10～ 29
2003	4	18 ～ 19	生コンクリート出荷が終了したのち、ミキサー室（2F）にあるバッチャープラント内の清掃を行っていた者が稼動中のバッチャープラント内で発見された。	10901	10～ 29
2003	3	16 ～ 17	工場内で、ゼオライト鉱石を粉碎する粉碎機（ローラーミル）が停止したのちで復旧作業を行っていたときに、機械が突然作動したため全身を巻き込まれた。	10909	10～ 29

2003	3	15 ～ 16	ゼラチンカプセルに充填する栄養補助食品の原料を、攪拌（かくはん）機および乳化分散機を上部に取り付けたステンレス製の「乳化溶解釜」で混合し、混合された原料を釜から抜いたあと、釜の内部に付着した原料をゴムベラでかき落としていたところ、溶解釜の蓋(重さ950kg)を持ち上げるための昇降装置のギヤシャフトが軸受けから外れ落ちたために蓋が下がり、釜と蓋との間にはさまれ前胸部を切断された。	10109	100 ～ 299
2003	2	15 ～ 16	砂利の洗浄・選別作業場で、インパクトクラッシャーのハンマー整備作業を行っていたときに、インパクトクラッシャー下方のベルトコンベヤに巻き込まれた。	20202	10～ 29
2002	11	16 ～ 17	瓦の下地材製造に使用する混合機の清掃中に混合機が突然動き出したため、中にいた者が内部の混合用のスクリーに下半身を巻き込まれた。	10909	1～9
2002	12	13 ～ 14	ビニルハウス内での養土製造作業で、養土攪拌機に土を入れようとしたが底部に前回の土が残っていたため、攪拌機を動かしながらシャベルで残土を取り除こうとして、攪拌機の土を攪拌するバーと攪拌機の底部との間に頭部、右腕部を挟まれた。	60101	1～9
2002	8	14 ～ 15	廃棄物処理プラントにおいて、破砕機へ投入するコンベヤーのプーリーに付着した異物を取除こうとして、コンベヤー先端付近から稼働している破砕機ホッパー内に墜落し、下肢を破砕機の回転歯に巻き込まれた。	150102	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	重機用マットの製造ラインで、材料の粒状ゴムを計量して円柱型攪拌用ミキサーへ投入後、攪拌用ミキサー内に立ち入っていたときに、製造ラインに戻ったオペレーターがミキサーを起動してしまったため巻き込まれた。	10806	10～ 29
2002	6	15 ～ 16	破砕機（クローラ式の下部走行体に2軸せん断機とホッパー・排出コンベヤーがついている、質量16t）で畳の破砕中に、せん断機が詰まったのでホッパー内に降り、せん断機のカッターに両下肢、両上肢を巻き込まれた。	150102	30～ 49
2002	6	11 ～	ガラス容器をリサイクルするためコンベア上でガラスの色ごとに選別してロータリークラシャーで破砕作業中、ロータリークラシャーから雑音が聞こ	80109	30～

		12	えてきたので、ロータリークラシャー上の異物を取り除こうとロータリークラシャーに近づき巻き込まれた。		49
2002	5	8 ～ 9	廃木材をチップ材に再生する再生工場において、始業時にプラントを稼働させるため別の場所にいた同僚がシュレッダー（粉砕機）の運転スイッチを入れたところ、シュレッダー（粉砕機）に巻き込まれた。	150102	1～9
2002	3	13 ～ 14	粉砕機周辺で作業をしていて、粉砕機に巻き込まれた。	170209	1～9
2002	1	14 ～ 15	機械を停止して生コンプラントのミキサー及びホッパー内でミキサー内部のライナー（鉄板）を張り替えていたところ、突然ゲートが閉まり首と肩を挟まれた。	10901	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	汚泥から肥料を製造している工場の発酵室において、発酵させている肥料をかきまぜる機械（スクーパー）の運転を停止してスクーパー上で昇降用モーターを点検中、チェーンがギアから外れることを防止するピンを抜いたため、チェーンが外れてかきまぜ部と一体となっている背板が下降し、昇降用モーターとの間に胸部と腹部を挟まれた。	150103	1～9
2002	2	9 ～ 10	産業廃棄物再生処理工場において、破碎状況の監視業務中に異常が発見されたので操作盤の停止釦を順に押して全ての機械の稼働を停止させたが、そのときに二次破碎機の投入口から誤って破碎機の内部に転落し、惰性で回転中のローターに巻き込まれた。	10804	10～ 29
2002	1	8 ～ 9	牛舎のパドックにおいて、カッティングミキサー（自走式で飼料を混合、搬出する機械）で乳牛に給餌中、ミキサーのホッパー上部で餌（乾草、グラスサイレージ、飼料の混合物）が固まってしまったので、ホッパーのへり上で掻き落とす作業を行っていたときにホッパー内に転落し、稼働していたスクリー部分に右足部分から巻き込まれた。	70101	30～ 49
2001	10	8 ～ 9	採石プラントの集中管理室で整粒機が異常を示したので、集中管理室で整粒機を停止させ、点検口より内部に入って整粒機下部にあるコンベヤーにはさまれた。	20201	10～ 29

2001	9	5 ～ 6	素麺を作る下拵え作業を行っていて、ミキサー(小麦粉と塩水を混ぜ、こねる機械)に全身を巻き込まれた。	10109	1～9
2001	9	15 ～ 16	生コン用ミキサー内部の洗浄作業で、ミキサーのアームを回転させながらミキサー内部をホースの水で洗浄していたところ、誤って点検口からミキサー内部に転落して回転中のアームに巻き込まれ、放出口よりコンクリートホッパーを通過し1階の投入ホッパーに落下した。	10901	1～9
2001	5	14 ～ 15	滑走路の舗装に使用するセメントの混合用プラントにおいて、作業終了後にミキサー部分の清掃を行っていたとき、ミキサーが作動したためシャフト部分のはつり作業をしていた者がミキサーに巻き込まれた。	30106	10～ 29
2001	4	13 ～ 14	建築廃材(鉄筋コンクリート)を破碎して礫として製品にする作業において、2次破碎に用いるスクロールクラッシャーの振動ふるいが作動しなくなったため、様子を見に行き振動ふるいを飛び越えようとして、ローラーミルの部分に両下肢を巻き込まれた。	150102	1～9
2001	3	10 ～ 11	生コンクリート製造用ミキサー内壁の摩耗防止用の内貼(ライナー)の取替えて試運転を行うときに、生コン搬出口(ゲート)の扉が閉まらないのでゲートに上半身を突っ込んで調整作業していたところ、突然閉まったゲートに頭部を挟まれた。	10901	50～ 99
2001	3	13 ～ 14	工場内において、鋳物に用いる砂をサンドミル(混合機)を用いて混合する作業中、サンドミル内に巻き込まれた。	11002	10～ 29
2001	2	14 ～ 15	塗料の製造工程において、円筒形・開放型の仕込みタンク(直径135cm、深さ約110cm、容量1620リットル)に原料を仕込んだのち、攪拌機で原料を混合していて、タンクに墜落し攪拌機に巻き込まれた。	10808	50～ 99
2001	1	14 ～	チョコレートを溶解するための攪拌装置付きタンクの上部蓋(直径40cm)を開放して原料用チョコレートをタンク内へ投入しているときにタンク内に原料用チョコレート空ビニール袋が落ちたため、取り除こうとしてタンク内に上	10104	30～ 49

		15	半身を入れて覗き込んでいたところ回転してきた攪拌用の羽根に巻き込まれ、タンクの上部蓋との間にはさまれた。		
2000	8	10 ～ 11	ミキサー車を洗うときに出る汚水処理する沈殿槽(深さ約3m)の中で攪拌機の羽根に挟まって死亡しているのを同僚が発見した。	10901	10～ 29
2000	6	15 ～ 16	コンクリート混合作業場において、コンクリートミキサーの羽根の取り換え作業をコンクリート投下口で行っていたときにミキサーの投下口の蓋が閉まり、蓋に挟まれた。	10901	50～ 99
2000	3	14 ～ 15	業務用粉石鹼を製造するミキサーに原料を投入するため、投入する高さまでフォークリフトのフォークを上昇させてパレットを装着し、足場を作っていたときにミキサーの内部に転落した。	10899	1～9
2000	7	0 ～ 1	プラスチック破砕機の破砕刃部上方にテレビ枠(破砕物)が詰まったので、自動運転から手動運転に切り換え投入口からテレビ枠を取り出してコンベア上に乗せたときにコンベア上にあったテレビ枠に当って下に転がって行き、その時にコンベアに設置されている破砕物検知用光電管が通電して投入口の蓋が閉まったため、投入口と蓋に首、胸部を挟まれた。	11402	300 ～
2000	8	16 ～ 17	コンクリートプラントの強制2軸ミキサー(砂・水等を混合し生コンを製造する機械)の内部を清掃作業中、機械を停止せずに作業していたため回転軸に巻き込まれた。	10901	10～ 29
2000	8	15 ～ 16	吹付けコンクリートプラントの一部であるコンクリートミキサー部分の清掃業務を行っていて、ミキサーからホッパーへコンクリートを排出するため可動式の仕切板であるカットオフゲートに胸部を挟まれた。	30102	1～9
2000	7	1 ～ 2	配合肥料工場の原料置場において、粗砕機ホッパーに原料の尿素をショベルローダーで投入する作業の終了後ホッパーの清掃を行っていてホッパー内に転落し、左足を粗砕機に巻き込まれた。	10801	30～ 49
2000	12	9 ～	碎石プラントのベルトコンベアで運ばれる碎石の量が少ないことを不審に思って、一次クラッシャーのシュート部を見に行ったところ、稼働中のク	20201	1～9

		10	ラッシャーに挟まれている同僚を発見した。		
2000	10	10 ～ 11	採石現場のクラッシャー操作を行っていて、ホッパー上部の開口部(縦112cm・横95cm)から墜落し、クラッシャーの歯に頭部をはさまれた。	20201	1～9
1999	11	13 ～ 14	ダム工事用道路の工事現場において、法面のコンクリート吹付用プラントの内部を清掃しているときに、ミキサーの羽に巻き込まれ全身打撲した。また、救出しようとしてミキサーの中に入った者もミキサーの羽に両足を挟まれ両足を骨折した。	30106	1～9
1999	10	8 ～ 9	惣菜製造会社の工場で攪拌機(混合機)によるハウレン草の白あえを製造後、攪拌機からゴムベラで、内容物を取り出す作業を行うときに、回転羽が邪魔になるので同僚が回転羽の位置を変えるために攪拌機のスイッチを入れたため、回転羽と攪拌機本体に巻き込まれた。	10109	50～ 99
1999	7	6 ～ 7	コンクリートプラントの砂利ホッパーが詰まったため、ホッパーの流量を調整するシリンダーの分解補修をしていたときに、ホッパー内の砂と共に混練機に落ち、巻き込まれた。	10901	10～ 29
1999	6	15 ～ 16	鋼製の容器の底に残ったアルミ缶の塊を破砕機の投入口に投入するため、容器の中で作業をしていて破砕機のロールに挟まれた。	80109	1～9
1999	4	11 ～ 12	コンクリートミキサーを用いてモルタルの製造を行っていてコンクリートミキサー内の羽に巻き込まれた。	30201	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	廃棄物を破砕機内に投入する作業中に、破砕機に巻き込まれた。	150102	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	水産工場内の氷の吸送ホッパーを試運転中にホッパーの中に金属部品が入っているのに気付いてこれを取り除こうとして中に入ったときに、まだ電源が切られていなかったため回転羽根がタイマーにより再起動して回転羽根とス	11301	1～9

			クリューコンベアーとの間に挟まれた。		
1999	1	10 ～ 11	コンクリートミキサーで清掃作業を行っていたところ、操作盤の押ボタンの修理に来た電気業者が誤って「ミキサー入」ボタンを押下したため、ミキサーが半回転しこれに足が巻き込まれた。	10901	10～ 29
1999	1	13 ～ 14	ゴム再生工場において、裁断されたタイヤチューブを粉砕機に投入する作業中に、粉砕機の粉砕ローラーに巻き込まれた。	10806	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。